

オイスカ高学園祭で生徒らが販売体験！

地域共創PJ
オイスカ高学園祭で
生徒らが販売体験
エネジンなどが支援
エネジン（浜松市中央区、藤田源右衛門社長）は地域共創プロジェクトの一環として、オイスカ浜松国際高等学校生徒が商品企画やデザイン、販売活動のプロセスを学ぶ機会を提供した。13日には同校学園祭にて、生徒らがパッケージデザインを手がけた「WARAB IYA わらび餅」を販売したII写真。
同プロジェクトは生徒

の実践的な学習を支援するとともに、スポーツ・教育・地域企業の連携により新たな価値の創出を



目指すもの。生徒らの学びの過程では、プロバス

ケットボールチーム「ベルテックス静岡」とのコラボや、就労支援事業所「カラフル」の作業協力など、複数の地域事業者が協力した。
学園祭当日は、企画・デザインに携わった生徒たちが商品200個の販売に参加。来場者に商品の魅力を直接伝えていた。

地域に根差す企業として、未来を担う高校生の皆様の主体的な学びと成長をサポートできたことを大変嬉しく思います。生徒の皆様が商品企画から販売までのプロセスを実践的に学び、来場者へ直接商品の魅力を伝える姿は、地域社会に大きな活力を与えてくれます。

今回のプロジェクトは、教育現場だけでなく、プロスポーツチームや就労支援事業所など、多様な地域事業者が連携することで実現しました。エネジンは、単にエネルギーを提供するだけでなく、こうした「スポーツ・教育・地域企業の連携」を通じて、地域に新たな価値を創出していくことが重要だと考えております。

今後も、地域の次世代を担う若者の健やかな成長を応援し、皆様に愛され、信頼される「地域密着型の総合エネルギー企業」として、地域社会の発展に貢献してまいります。

令和8年(2026年)6月24日(水) 建通新聞

